

「アレルギー緊急対応マニュアル（香川県小児科医会版）」について

香川県小児科医会
会長 藤澤 卓爾

2012年12月、東京都調布市の小学校で、給食時のチーズ入りのチヂミを喫食した5年生の女児が食物アレルギーによるアナフィラキシーショックで死亡しました。このニュースはマスコミでも大きく取り上げられ、食物アレルギーについて社会的な関心が高まるきっかけになった事件として皆様方もよくご存じのことと思います。この事例では、誤食にいたった人為的なミスとともに緊急時の対応の遅れが問題になりました。もっと早く、適切に、女児にエピペン（アドレナリン自己注射製剤）が投与されていたならば、と考えると医師としても残念な気持ちになります。

学校給食での誤食事故はその後もたびたび起きています。アレルギーを起こす食品の除去・回避のための具体的対応策は多くの園・学校で行われていますが、事象事例を検証すると、「人はミスをする」ということを想定しておく必要があります。そして、避けられないヒューマン・エラーに対して被害を最小限に抑えるために、1) 誰が、2) 何を、3) どのように、すべきかを考えた行動指針を作ることが重要です。

香川県小児科医会では、「食物アレルギー対策」を同医会推進事業の1つと位置づけ、平成25年度より食物アレルギー対策委員会（委員長：平場一美）を設置、現在まで種々の活動を行ってきました。この度、活動の一環として「アレルギー緊急時対応マニュアル」を作成、関係する皆様方へ配布することにいたしました。緊急対応の手順、役割分担、症状のチェック、エピペンの使用方法などをカラー写真やイラストなどを使い、分かりやすく解説しており、各園、各学校でのエピペン注射実習を含めた実地訓練（シミュレーション）はもちろん、実際の緊急現場においても役立つ資料となっております。是非、皆様方の施設にてご活用頂きたく存じます。

